

令和4年8月1日

枚方市は市制施行75周年



昭和22年8月1日、府内12番目の市として誕生した枚方市は今年で市制施行75周年を迎えました。人口約4万人だったまちは大阪のベッドタウンとして発展し、現在は約40万人を誇る大都市に。懐かしの写真とともに枚方の変遷を振り返りましょう。

☎広報プロモーション課 ☎841・1258、☎846・5341

＼あの頃の枚方、最近の枚方／

昭和32年



文化財課市史資料室提供

国道1号線寝屋川との市境



令和4年

▲両側には平野が広がっていましたが、今では店舗や住宅がたくさん並んでいます。

昭和58年



文化財課市史資料室提供

枚方市駅前（北側）



令和4年

▲今も昔ものにぎわいのある場所です。

平成4年



文化財課市史資料室提供

枚方市駅前（南側）



平成30年

▲啓光学園ラグビー部の全国大会初優勝パレード。

▲国内大会3冠を3度達成したパレーポールチーム・パナソニックパナサーズの優勝パレード。

2022年

令和4年

市制75周年を迎える

2019年

令和元年
テーマソング
「この街が好き」完成

2018年

平成30年
大阪北部地震で
震度6弱を観測
台風21号が直撃

2014年

平成26年
全国43市目の中核市に

くずはモール街がオープン。広場には機関車「デゴイチ」が2004年のリニューアルまで飾られていました。くずはモールといえばこの風景という人も多いのでは。

1947年
昭和22年

府内12番目に市制施行
当時の人口は4万人

1955年

昭和30年
津田町を編入合併

1970年

昭和45年
人口が20万人を超える

1982年

昭和57年
非核平和都市宣言

1989年

平成元年
「枚方市平和の日」制定

1995年

平成7年
人口が40万人を超える

枚方市75年のあゆみ

昭和37年
(1962年)



文化財課市史資料室提供

香里団地は郊外型大規模住宅のさきがけで、当時東洋一のマンモス団地と言われていました。ケネディ大統領の弟で当時の司法長官ロバート・ケネディ夫妻(写真中央)も視察に訪れたほど。

昭和47年(1972年)



文化財課市史資料室提供

次ページ: 五嶋みどりさん×伏見市長 75周年記念対談

バイオリニスト 五嶋 みどり

市制75周年記念対談

枚方市長
伏見 隆

◆ごとう みどり

11歳で渡米し、ニューヨーク・フィルとの協演でデビュー。研ぎ澄まされた技術と繊細かつ優美な演奏スタイルが多くの人の心を掴む。音楽を通して文化・芸術の振興と子どもの健全育成などを目指し、世界各地で「本物の音楽」を届ける活動にも注力している。

市長 音楽の輪を広げ、子どもたちに本物の音楽に触れる機会を作っていただきありがとうございます。活動への思いを聞かせてください。

五嶋さん(以下五嶋) まずは市制施行75周年おめでとうございます。幼少期を過ごした枚方にこうして帰ってこられたことをうれしく思います。私は小さい頃からバイオリンと音楽が常に近くにある生活でしたが、渡米した80年代のアメリカは音楽教育を減らす方針で、音楽が身近にあることは決して当たり前ではなく、幸せなことなのだと感じました。

音楽がそばにあるのは 当たり前ではないから

1409、☎841・1278
◎文化生涯学習課 ☎841・

6月18日、市制施行75周年記念事業として市出身の世界的バイオリニスト・五嶋みどりさんとむらの高等支援学校・茨木支援学校の生徒との演奏会が総合文化芸術センターで開催されました。市は、昨年11月に五嶋さんが代表を務める認定NPO法人「ミュージック・シェアリング」と連携協定を結んでおり、その事業の一つとして今回のイベントが実現。五嶋さんの音楽活動への思いや枚方の思い出を伏見市長と語り合いました。

市長 6月8日に開催されたひらかた子ども発達支援センターでの演奏会では、子どもたちが五嶋さんの演奏に合わせて指揮者のように体を動かしたり、自由に踊ったりしていました。一人一人、感じ方や表現の仕方が違っていいなと思いました。

五嶋 音楽を聴いて自然な形で反応してくれるのはうれしいことです。聞こえてきた音を自然に表現することこそ、本当の意味での「音楽」です。あらゆる可能性を秘めた、見えない・想像できないパワーを持っている大切なもの。ミュージック・シェアリング

演奏の場や音楽家らと交流する経験から多くのことを学んだ私は、「音楽をまちや学校に戻す、教育に織り込む」ことを目標に、1992年にニューヨークで「みどり教育財団」を立ち上げ、東京支部も設立しました。それが現在の「ミュージック・シェアリング」です。設立から今年で30年が経ちます。



▲6月8日、ひらかた子ども発達支援センターでの演奏。

子どもたちに本物の音楽を届けたい 彼らの未来を豊かにすると信じて



**誰でも上げられるステージを。
その夢が枚方で叶った**

市長 以前、むらの高等支援学校で、生徒とミュージック・シエアリングの皆さんが演奏会に向けて練習に取り組まれているところにお邪魔しました。どの子もすごく楽しそうでした。少し緊張していた様子もありましたが、良い経験になったのでは。うまくいかないことも大切な経験で、そうやって成長していくのでしょね。やっぱり子どもたちが輝いている姿や、若者が成長していく姿を見るのはうれしいです。

との活動を通して音楽を聴いたり感じたことを発表したりする経験は、今すぐ、あるいは10年後や15年後に彼らの生活をとても豊かに感じさせてくれるのではないかと思っています。

演奏とは、自分の中で感じていることや自分の手で音楽を作り上げること。自分の中のもののが外に出ていく経験、それが一生の友になるかなと。枚方市が音楽を大切に思い、今回のような企画を実現していただければ大変ありがたいことです。

市長 五嶋さんの演奏や活動に触れることで、市民の夢や誇りを育みたいです。また、75周年を迎え、これからの枚方を担う子どもたちの無限の可能性を広げるきっかけになることも願っています。

配慮されたところは少なく、実現は簡単ではありませんでした。だから今回、むらの高等支援学校や茨木支援学校の皆さんと一緒にステージに上がることは、私にとって客



▲6月18日の演奏会での一幕。一体感が伝わる。

席で聴いてもらうよりもすぐくうれしいこと。子どもたちが本番に向けて準備をしている姿は見ていて本当に幸せです。今までできなかったことが、故郷・枚方で叶いました。

市長 枚方市は誰でもやりたいことにチャレンジできて、自分らしく輝ける、そんな街にしたいですね。

久しぶりの地元 枚方市駅周辺を巡って

五嶋 リハーサルの合間に枚方市駅周辺を何度も歩き回って、素敵な街だなあと感じましたね。大きなデパートだけでなく、昔ながらのお米屋さんやお味噌屋さんなどもあるのがとても魅力的です。

市長 駅の近くに歴史あるものから新しいものまで揃っていますよね。この場所で営まれてきた生活や文化などの歴史は、いろんな物語があつてすごく面白い。ですが市民にとっては当たり前になってしまっていて、文化や芸術を通して、知って楽しんでもらう機会をいつか作りたいと考えています。

とここで五嶋さんは11歳まで枚方で過ごしていたそうですが、バイオリンの練習場所も枚方でしたか？

五嶋 主に楠葉の自宅で練習して

ました。近所の風景や、バスに乗って駅まで出たことを思い出しますね。駅前にあったスーパードに行つたこともよく覚えています。その樟葉駅も大きく変わりましたよね。

市長 くずはモールがリニューアルして、景色はだいぶ変わりましたね。いよいよ来年1月18日にはこの総合文化芸術センターで五嶋さんのリサイタルが開催されます。チケットは10月8日から販売開始です。私も大変心待ちにしています！生まれ故郷の枚方で演奏する思いをぜひ聞かせてください。

五嶋 小さい頃、コンサートは電車に乗って遠くまで行かなければいけないものでした。それが枚方に総合文化芸術センターという素晴らしいホールができて、さらに支援学校の皆さんと一緒に演奏したホールで次は自分が演奏するなんて、とても感慨深いですね。

市長 市民の皆さんにとって、枚方出身の五嶋さんは音楽以外のつながりも感じられる存在だと思っています。素晴らしい演奏を楽しみにしています。

五嶋 ありがとうございます。来日するピアノストに、枚方のお気に入り場所を案内するのも楽しみです！

